

# 市民俳歌柳壇

## 歌壇

安野登美子 選

送り火のゆらぎに気配を感じをり  
闇にとけゆく父の面影

◎選評 盆の送り火のゆらぎの中に、そこはかとなく感じたことは、「ゆらぎ」「気配」。そして「闇」と「けゆく」亡き父の面影を、幻を追いつつ立ち尽くす作者を見る。送り盆に精霊との悲しい別れがこの歌を作らせたと思う。隙間のないたたみ込みも良く、深い思いを沈滞させ、しみじみと歌い上げた一首である。

言の葉とそつと握手をしたること  
若葉のような歌作りたし

野沢町 鈴木 孝男

県庁の回りのビルをまた一つ  
壊して引き継ぐ平成の夢

泉町 秋野 毅

●陽東6丁目 原子 吉彦

小さ目のルビーのピアスが似合ってる  
君の在りし日スマホで辿る

花園町 小林 秀行

虫しぐれ聞きつつ息子に逝かれたる  
八十二の友案じてをりぬ

戸祭2丁目 林 佳子

## 俳壇

星田一草 選

瀬戸川の霧の浄める山廬かな

双葉1丁目 大島 志朗

先導は秋茜なり墓参り

石井町 吉澤 伸人

●江曾島本町 中村 元吉

雷鳴の空に夕日の輝けり

下田原町 五十嵐由美子

国府跡の朱塗りの柱秋の蝶

一の沢2丁目 豊坂 正

## 柳壇

荒井宗明 選

宿題の重さと帰るランドセル

◎選評 この春入学した一年生も、秋ともなればたくましくなるものである。あのヨチヨチとした足取りはどこにもない。先生に叱られたこと、褒められたこと、友達とのけんか、仲直りなどなど、勉強とは別に、いろいろな経験をする。そして一年生もたくましくなるのである。だから、いつまでも「今でも子どもで困る」と嘆く両親が、その成長をよく知っているはずなのである。

夢一つ叶った今日の顔の色

鶴田町 片山伊智子

免許証返し本当の齢となり

上野町 岡田 至弘

●鶴田町 鈴木芙美子

三度目の返事返らぬ古稀の耳

清原台4丁目 水上 義明

天井に点となり切る冬の蠅

東横田町 中村 俊一

## うつのみやの歴史を紐解く物語

## 第7回 2つの追分、水運の鬼怒川 陸路編



日光街道と奥州街道の追分

■坂上田村麻呂が歩いた道 宇都宮は昔から東北に向かう主要な道の通過点でした。平城京や平安京と陸奥国を結ぶ古代からの幹線道路の1つである「東山道」が宇都宮を通っていました。征夷大將軍となった坂上田村麻呂は、蝦夷との戦いのため、この道を歩き東北に向かいました。

■頼朝・秀吉が歩いた道 中世には、鎌倉と奥州を結ぶ「奥大道」と呼ばれる幹線道が宇都宮城の東側を通っていました。源頼朝はこの道を進み、弟義経を追い掛け、奥州藤原氏のいる平泉に向かいました。また、豊臣秀吉は小田原の北条氏を倒した後、会津に向かう途中で宇都宮に立ち寄り、関東や奥州の武将に対しさまざまな命令を出しています。この時、独眼竜で有名な伊達政宗も秀吉のもとに参上しています。

■2つの街道の追分 近世になると、江戸を起点とした五街道のうちの「日光道中」「奥州道中」

の2つの街道の追分の地となります。現在の大通りと本郷町通りの交差点付近が2つの街道の分岐点です。徳川3代將軍家光や8代將軍吉宗などがこの道を通り、日光社参の際には、宇都宮に宿泊しました。また、東北地方の大名たちは参勤交代の際に奥州道中を使い、江戸に向かいました。

■交通の要衝 宇都宮 近代以降は、国道4号線が宇都宮を通り、東京から東北地方に向けての陸上輸送の大動脈となっています。

このように宇都宮は、常にそれぞれの時代で、日本の中心地と東北を結ぶ主要な幹線道路が通り、陸上交通の要衝の地として人・物・情報が行き交った結果、芸術文化や技術などを吸収しながら、発展してきた街なのです。

☎文化課☎(632)2764

◎俳歌柳壇 応募方法 1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。対象は市内在住の人で、未発表作品に限ります。はがきに、作品(漢字にはふりがなも付けて)・住所・氏名(ふりがな)・応募する壇名を書き、毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。市内に在住か通学している小・中学生からも応募をお待ちしています。☎広報広聴課☎(632)2028